

外国語WG 資料

中学校の改善の方向性について

酒井英樹
信州大学

ポイント

- 授業を英語で行うことを基本とすることについて
 - 小学校と中学校の学び方の円滑な接続
 - 理解の仕方
 - 第二言語習得の促進
 - インプットと質と量
 - 言語活動の充実
- 教材・教科書について
 - 文法配列

教員養成

小学生の学び方

ALT: What is this letter?

児童: 先生、letter って何？

- 「文字っていう意味だよ。」ではなく
- 実際は・・・ “Letters are alphabets. A is a letter. B is a letter. ABC.... How many letters are there? 26. Yes. Then what’s this letter?”
- 具体的な経験や資格情報
- 視覚
- 言い換え
- 具体例

インプットの質と量

Word Search

(英語だけで授業を行おうと意識した場合と、日本語を使ってもよいと意識した場合)

- T: For example, camera. C-A-M-E-R-A. Look for C-A-M-E. OK? You can see the word “is.” Right? I-S. “is.” A-kun, did you find “is”? I-S. Yes?
- A: Yes.
- T: B-kun, did you see “is”? Please look at “is.” (生徒Bのプリントを指さす) Yes? Please put a circle on “is.” Please put a circle on “is.”

インプットの質と量

多くの表現のインプット、繰り返し、問いかけ、具体的な理解

- T: No 1 から No. 10 までね、単語を見つけたら丸をしてください。例えばね、1番右側の1番上をみてください。縦にIとSが並んでいるね。Is だよ。Is のところに丸をつけて下さい。こういうふうに丸をつけて下さい。OK?
- S: 単語をこの中から探すの？
- T: Yes.

Sakai, H. (1998). Teacher talk by non-native speakers of English at junior high schools in Japan: Individual differences. 『中部地区英語教育学会紀要, 28』, 119-126.

• 4人の先生 同じ指導案(中学2年生)

Table 1. Data Description

	Class A (K)		Class B (H)		Class C (W)		Class D (N)	
activity	time	unit	time	unit	time	unit	time	unit
1 Greetings	0"20	1	2"40	45	1"11	30	1"00	20
2 Review	9"13	246	12"31	201	8"21	189	11"35	271
3 Pre-Reading	13"45	301	10"31	130	9"10	205	7"51	128
4 Vocabulary	10"05	229	9"50	206	20"58	446	11"16	249
5 While-Reading	10"56	168	11"03	93	7"35	152	10"48	160
6 Summary	0"06	2	0"57	4	1"25	5	6"03	15
total	45"00	947	47"35	679	48"40	1027	48"33	843
2 to 5	44"34	944	43"58	630	46"04	992	41"30	808
Japanese		(144)		(63)		(35)		(25)

英語の使い方

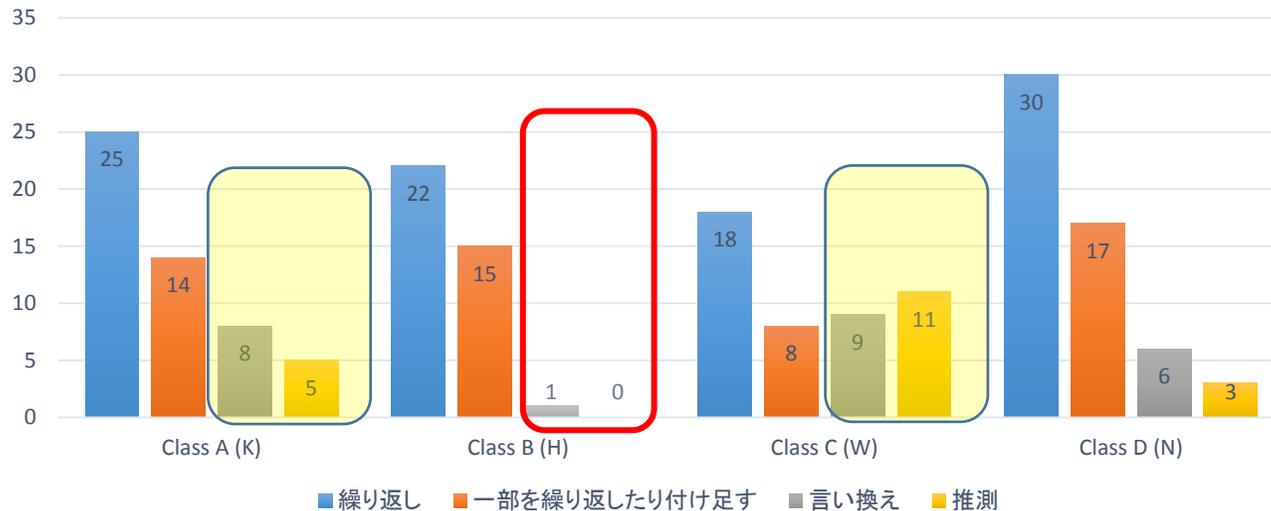


英語の使用量が多い

→

働きかけ(問いかけや指示)や、生徒の発話に対する反応が多い

生徒の発話に対する反応の仕方



言い換えや推測が多い

→

生徒の考えや意見を理解しようとしたり、その理解の内容を伝えようとすることになる。

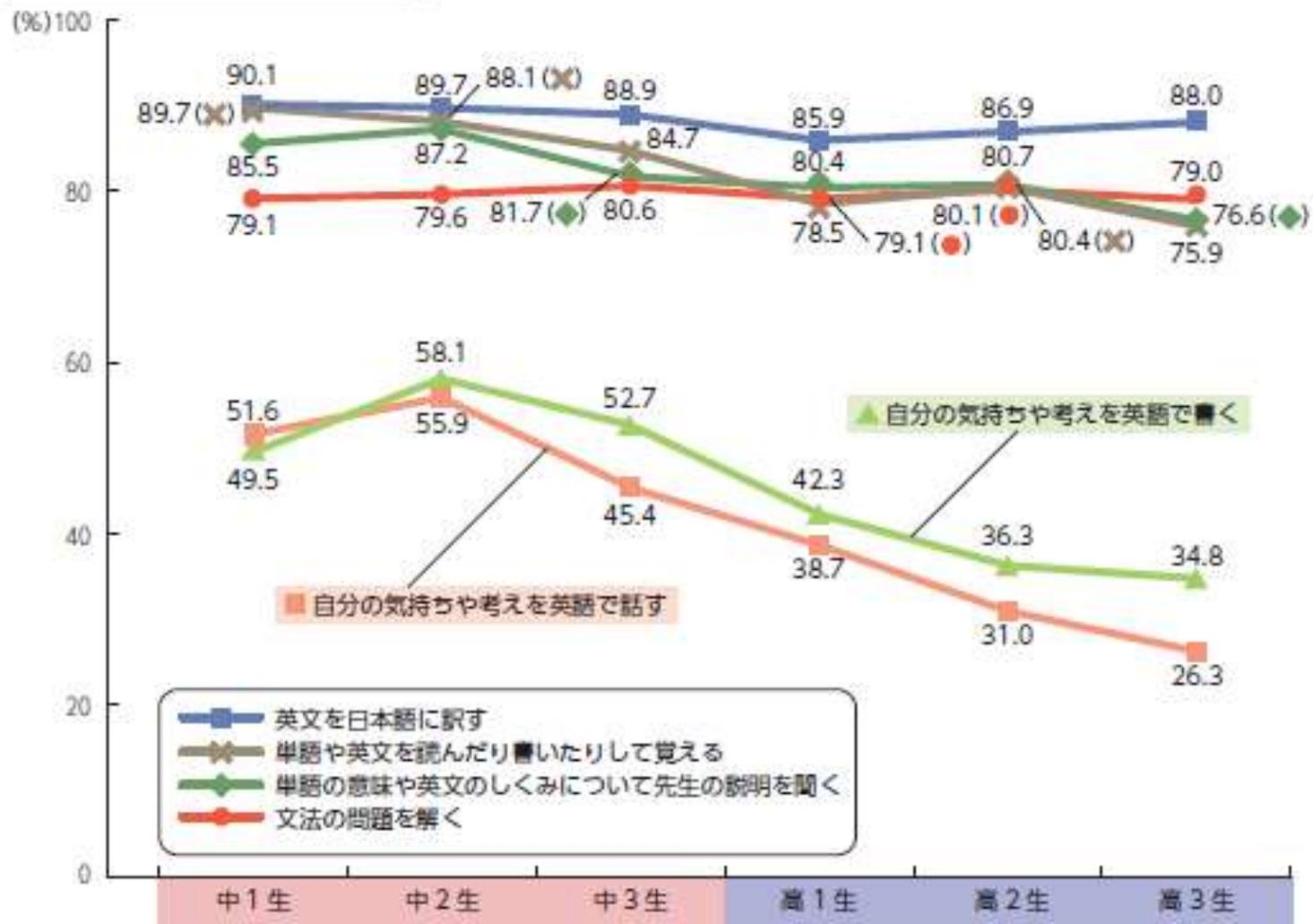
「中高生の英語学習に関する実態調査2014」 (ベネッセ教育総合研究所)

- 調査テーマ
 - 中高生の英語学習の実態と意識に関する調査
- 調査方法
 - 郵送法による自記式質問紙調査
- 調査時期
 - 2014年3月
- 回答者
 - 中学1年生～高校3年生 6,294名
 - 中学1年生(1,057名), 2年生(1,028名), 3年生(996名)
 - 高校1年生(931名), 2年生(790名), 3年生(1,433名)
 - 不明 59名



学校の英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていましたか。

図2-2 授業でしていること



*「よくしている」+「ときどきしている」の%。

「訳す」、「覚える」、
「先生の説明を聞く」、
「文法の問題を解く」・・・7割以上

自分の気持ちや考え
を書いたり話したりする活・・・中2がピーク



あなたはふだん、学校の英語の授業のためにどのような勉強をしていますか。

図 2-4 授業の予習・復習



授業に関する家庭学習では、英語を使用している生徒が少ない。



あなたは英語が得意ですか、苦手ですか。

図3-1 英語の得意・苦手



2009年調査 中学2年(2009年1~2月)

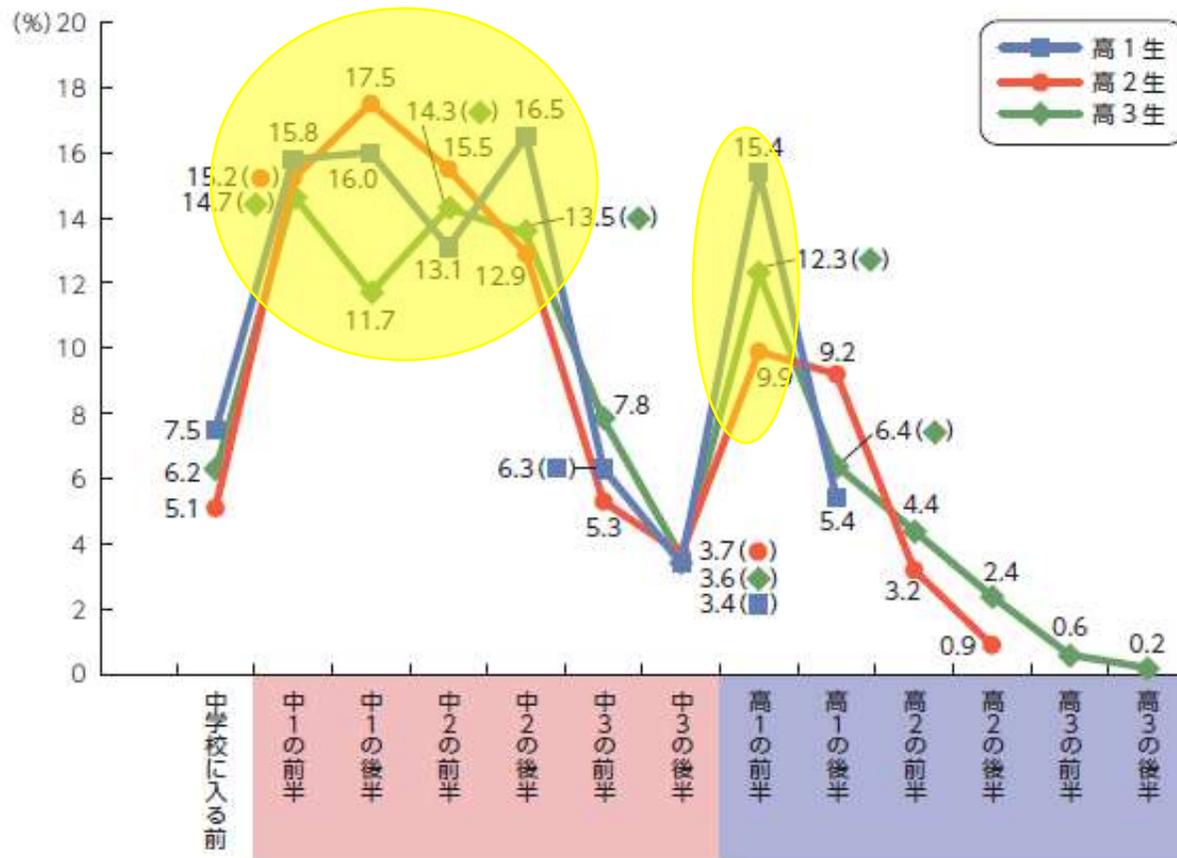


「とても得意」「やや得意」・・・以前よりも改善されている可能性



あなたが、英語を苦手と感じるようになったのはいつ頃からですか。

図3-2 英語を苦手と感じるようになった時期



*英語の「得意・苦手」について「やや苦手」「とても苦手」と回答した人のみ回答。

中1前半～中2後半

小学校での学びを受け継いで、さらに得意にするような中学校での英語授業が必要である。

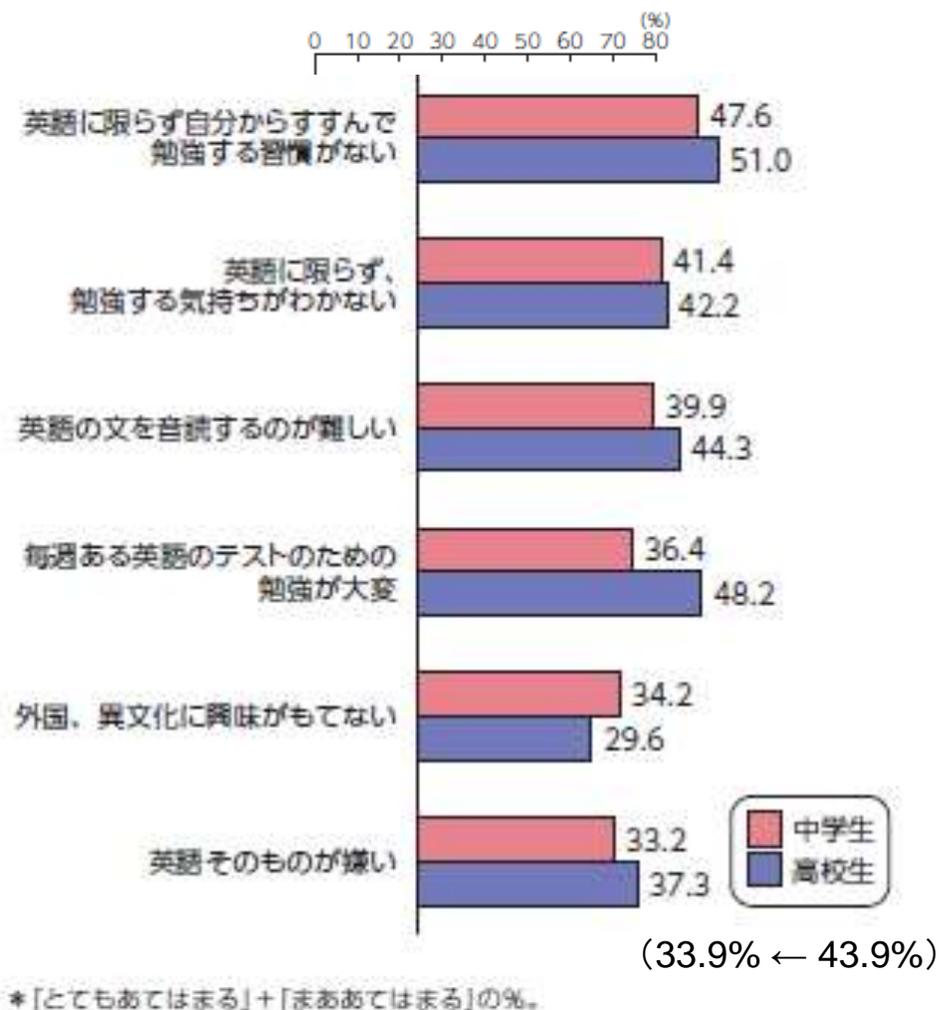
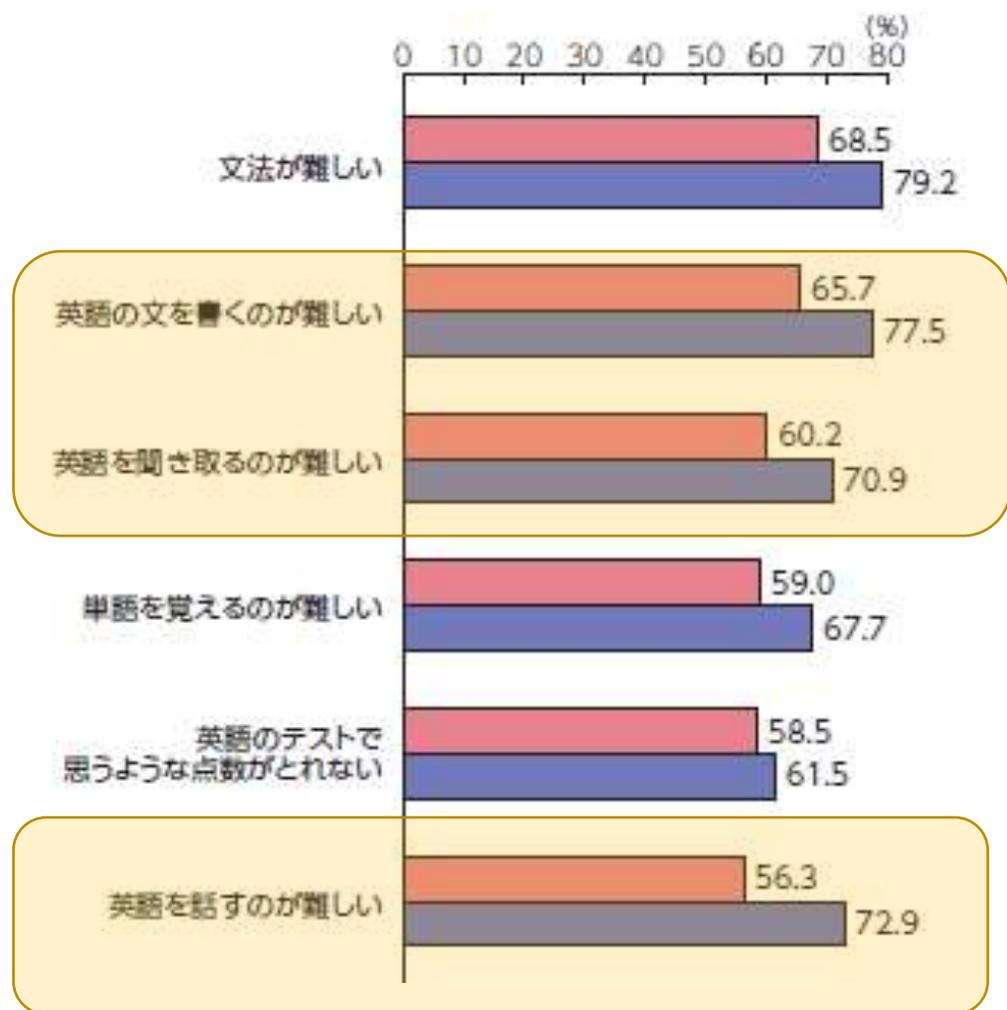
高1前半

中高の接続をスムーズにする必要がある(教科書の難易度の違い、など)。



英語の学習にかかわることについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

図3-3 英語学習のつまずき

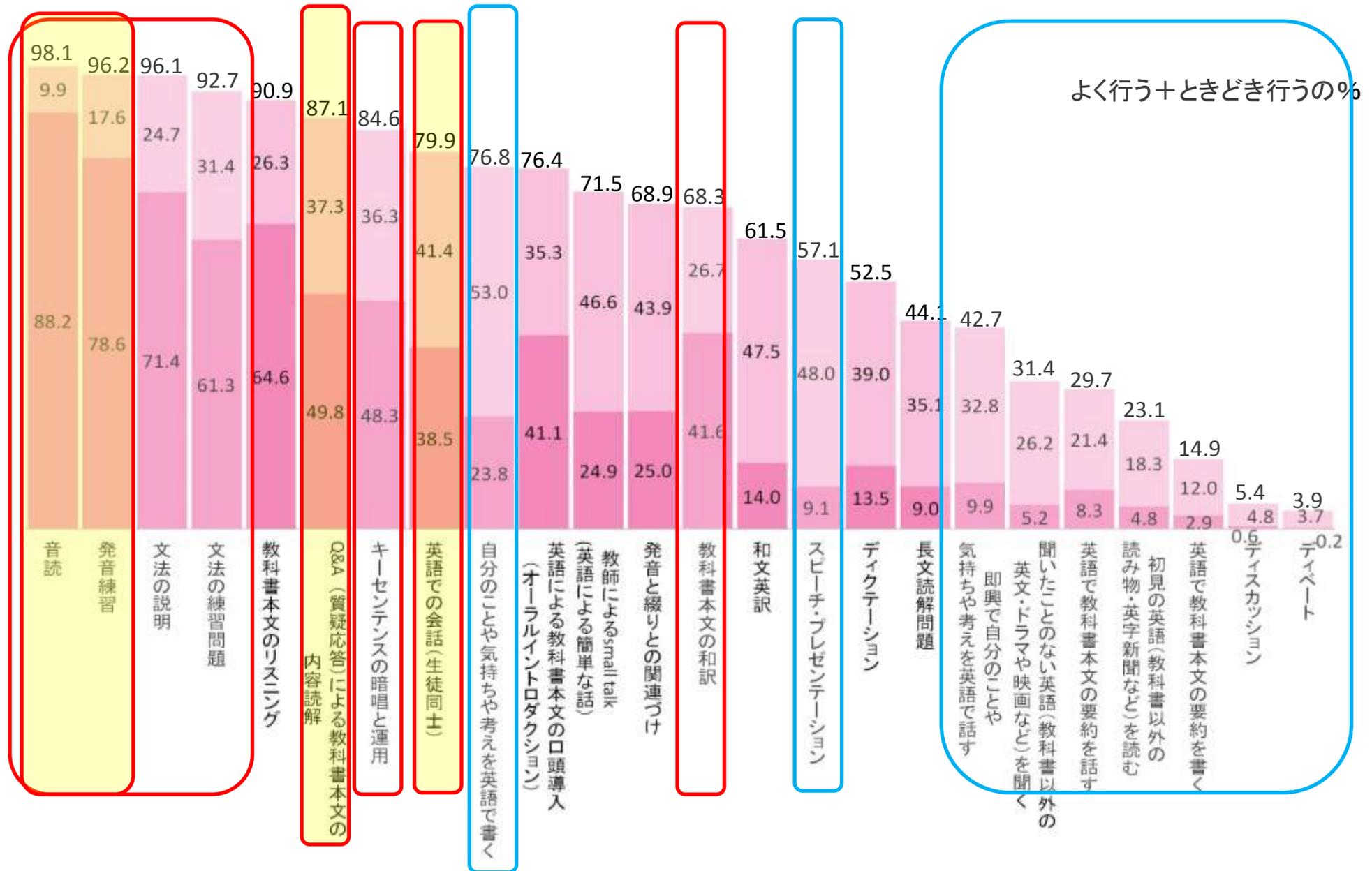


・2009年の中学2年生と、2014年の中学2年生

「中高の英語指導に関する実態調査2015」 (ベネッセ教育総合研究所)

- 調査テーマ
 - 中高の英語指導の実態と教員の意識
- 調査方法
 - 郵送法による質問紙調査
- 調査時期
 - 2015年8～9月
- 回答者
 - 全国の中学校・高校の校長および英語教員
 - 各学校に校長用調査票＋英語教員用調査票(中3通、高6通)送付
 - 中学校:できるだけ各学年一人ずつ 1,809名
 - 高校 :コミュニケーション英語(基礎・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれか)担当 2,134名

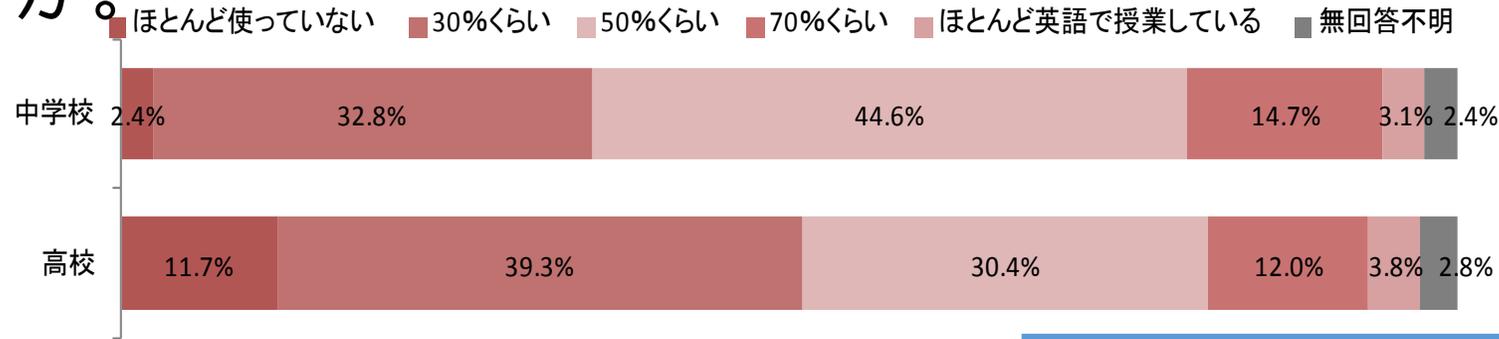
授業において次のようなことをどのくらい行っていますか。(中学校)



英語を指導する際、次のことはどれくらい重要だと思いますか。また、それぞれについてあなた自身はどの程度実行していますか。



ふだんの授業において英語をご使用になる割合はどれくらいですか。

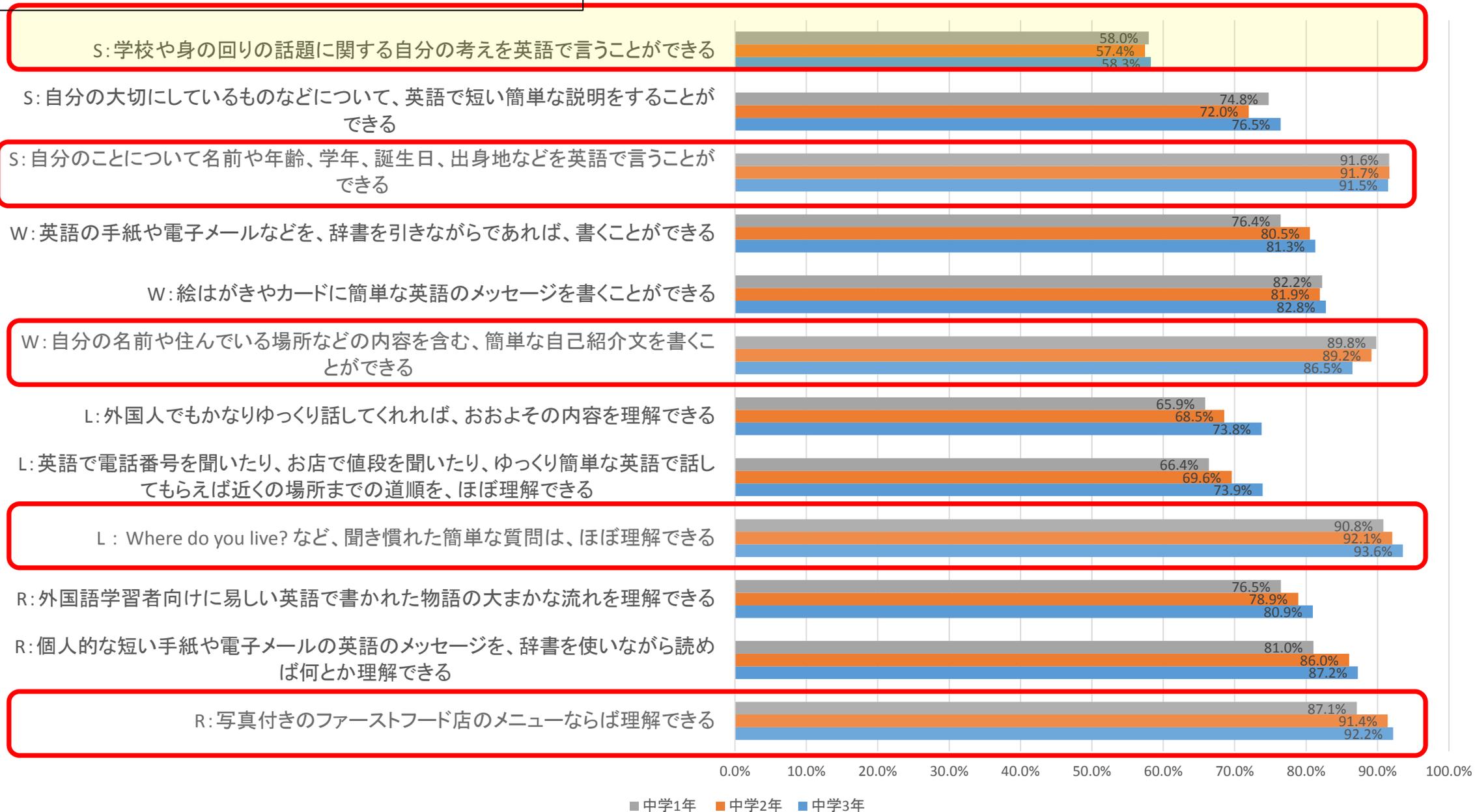


ふだんの授業において、次のような場面で英語を使いますか。
(中学校)

よく+まあ使う %

	中学校
生徒への指示	94.5
褒め・励まし	89.0
生徒とのQ&A	88.9
生徒へのコメント・アドバイス	66.2
発音や発話の指導	65.3
本文の内容を紹介・説明(オーラルイントロダクションやパラフレーズ)	64.1
言語活動の説明(活動のモデル提示も含む)	58.4
生徒が話したり書いたりした英語のパラフレーズ	41.7
誤りの修正	28.9
文法の説明	11.5

英語を使って、次のようなことはできますか。



伝え合うこと

- What ~ do you like? / I like ~.

A: Hello.

B: Hello.

A: What color do you like?

B: I like yellow.

A: 黄色いカードをあげる

B: Thank you. See you.

A: See you.

- 実際は

A: Hello.

B: Hello. Yellow.

A: 黄色いカードをあげる

B: Thank you. See you.

A: See you.

- 文法 vs. 伝達・理解 (生徒のパフォーマンスをどのように見るか)

A: Hello.

B: Hello.

A: **What color do you like?**

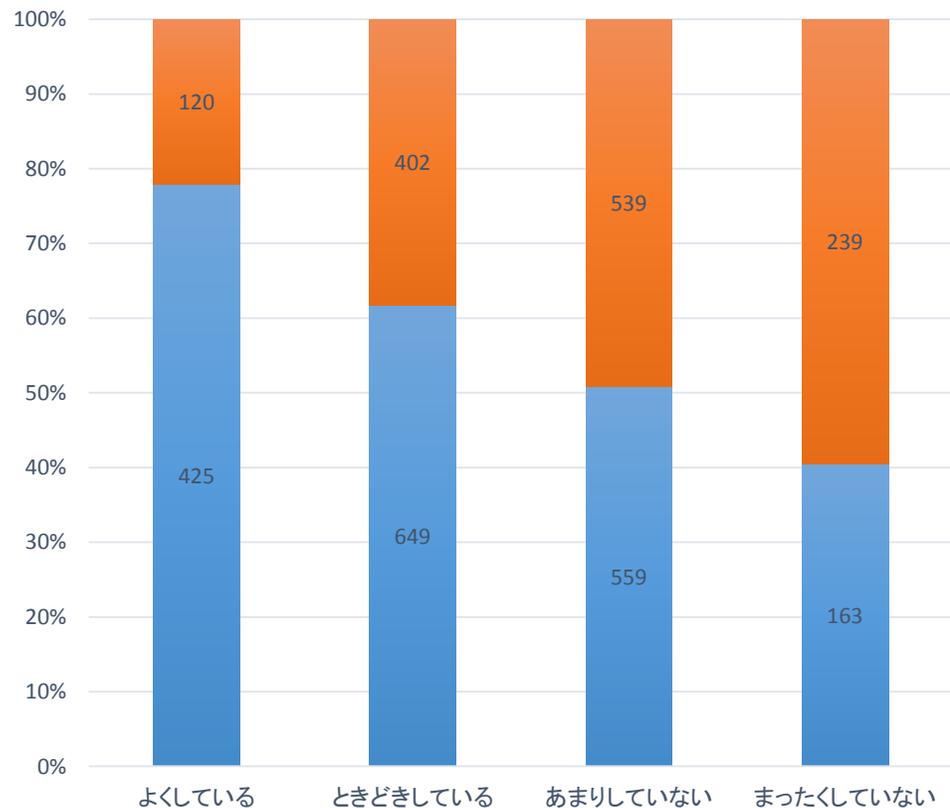
B: **I like yellow.**

A: 黄色いカードをあげる

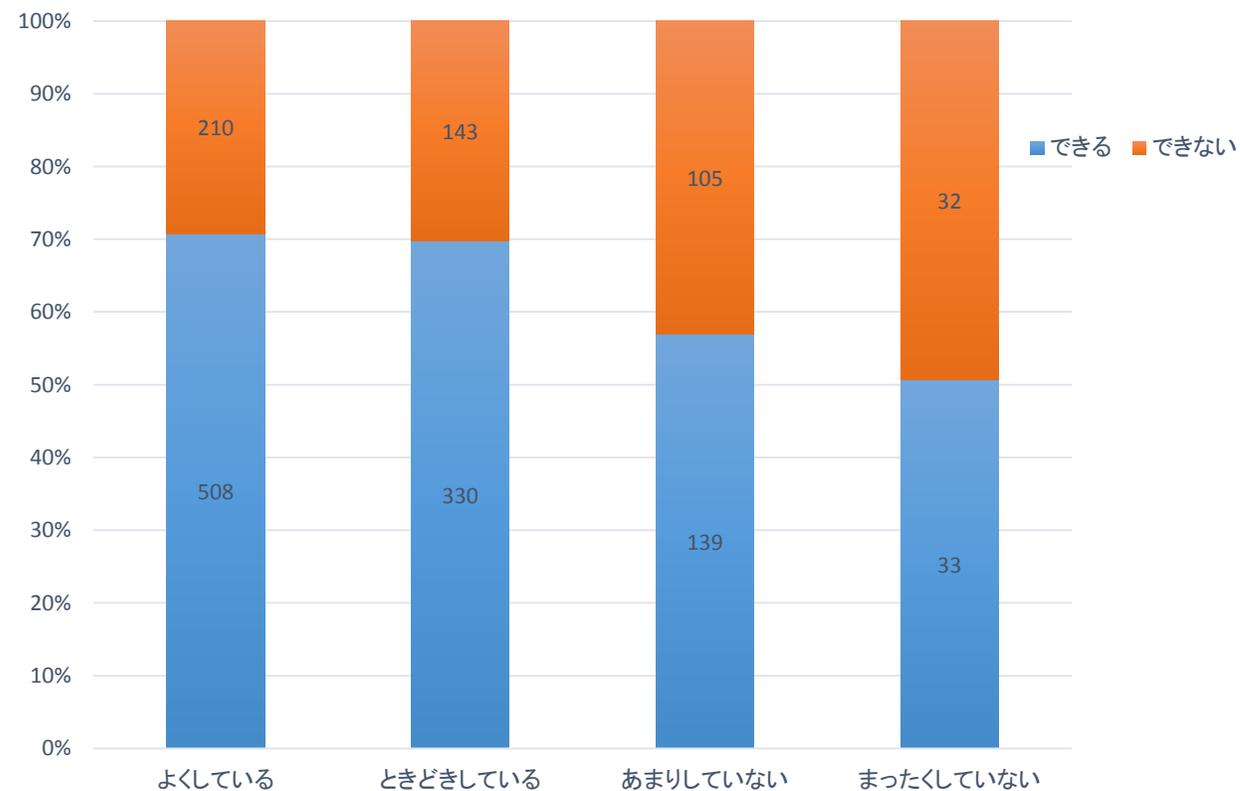
B: Thank you. See you.

A: See you.

学校や身の回りの話題に関する自分の考えを英語で言うことができる



授業: 自分の気持ちや考えを英語で話す



授業: 単語の意味や英文のしくみについて先生の説明を聞く
(+自分の気持ちや考えを英語で話す「あまりしていない」+「まったくしていない」)

現状と課題

- 中学校においても、「訳す」、「覚える」、「先生の説明を聞く」、「文法の問題を解く」という活動がよく行われており、自分の気持ちや考えを話したり書いたりする活動は、5～6割程度の生徒が「よくしている」+「ときどきしている」と回答している。
- 家庭学習も、「単語練習」「単語の意味調べ」「問題を解く」活動が多く、7割の生徒が英語を使用する家庭学習をしていないと回答している。
- 中1前半～中2後半が、英語が苦手になる時期である。文法が難しいという回答もあるが、書けない、聞けない、話せないというつまづきが多く報告されている。
- 文法の説明・練習、キーセンテンスの暗唱と練習などに追われていて、自分の考えを英語で表現したりすることは重要であると思いつつも十分実行できていない。
- 60%以上の中学校教員が、英語を授業の50%以上使っていると回答しているが、生徒と英語でやりとりできていない。
- 「学校や身の回りの話題に関する自分の考えを英語で言うことができる」は6割弱の中学生が「できる」と答えている。「自分の気持ちや考えを話す」活動が少ないと「できる」と答えられる生徒が少なくなる。

信州大学教育学部の開設科目 (2015年度)

教科に関する科目

免許法の科目	科目名	単位
英語学	○英語学基礎	2
	英語学と英語教育Ⅰ	1
	英語学と英語教育Ⅱ	1
	英語学と英語教育Ⅲ	1
	英語学と英語教育Ⅳ	1
	英語史と英語教育	1
	学校文法と教材分析	1
英米文学	○英米文学基礎	2
	英米文学と英語教育Ⅰ	1
	英米文学と英語教育Ⅱ	1
英語コミュニケーション	○伝達能力論基礎	2
	英語リスニング	1
	英語リーディングⅠ	1
	英語リーディングⅡ	1
	英語リーディングⅢ	1
	英語ライティングⅠ	1
	英語ライティングⅡ	1
	英語ライティングⅢ	1
	教室英語コミュニケーションⅠ	1
	教室英語コミュニケーションⅡ	1
	教室英語コミュニケーションⅢ	1
異文化理解	○異文化理解基礎	2
	英語文化	1
	文学からみる文化	1
	言語からみる文化	1

各教科の指導法

英語	○英語科指導法基礎	2
	英語科授業学	2
	英語科評価論	2
	英語科指導法演習Ⅰ	1
	英語科指導法演習Ⅱ	1

外国語によるコミュニケーション能力の育成(英語を使って伝え合う(理解し合う)力の育成)することが外国語科の目標である時、教員養成に関する科目は、従来のみで良いのか、再検討する必要がある。

例

- ・コミュニケーション重視と文法重視。
- ・コミュニケーション能力の理解をどこで図るか。
- ・中学校教科書に物語教材は若干含まれていても文学作品はかなり少ない。
- ・国際共通語としての英語力と異文化理解・異文化間コミュニケーション。

まとめ(再掲)

- 授業を英語で行うことを基本とすることについて
 - 小学校と中学校の学び方の円滑な接続
 - 理解の仕方
 - 第二言語習得の促進
 - インプットと質と量
 - 言語活動の充実
- 教材・教科書について
 - 文法配列

教員養成について